

「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第13回

1. 実施日

令和3年11月27日(土) 1・2限

2. 場所

1棟多目的室、図書館

3. 対象

グローバル科1年生(6・7組)

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 6組 山中 脩平・中村 啓介、7組 金本 瑞穂・矢野 和久

TA: 本校グローバル科卒業生の大学生6名



5. 内容

研究計画書作成・文献調査

(1) 全体説明

1棟多目的室に集合し、本日の流れを確認し、研究計画書作成とスライド作成について説明(どの端末からでも編集ができるようOneDriveに保存するよう説明)。また、アンケートフォームを使用し、各チームの進捗状況を確認する。

(2) 研究計画書作成・文献調査・スライド作成

各チームの状況に合わせて多目的教室または図書館で活動する。今日の活動の最後に研究計画書のデータをロイロノートの提出箱機能を用いて回収する。

6. 学び

各探究チームは進捗状況を報告するために、これまでの活動を俯瞰的に振り返ることができる。研究の目的や調査の方法が妥当であるかをチームメンバーで話し合うことで、探究内容の理解を深める。

7. 次回への課題

探究チームがアンケート調査を実施するまでが8で述べた理由により容易になった。アンケート調査には倫理的な配慮が必要な場面もあることから、生徒がFormsを利用する規定を作る必要がある。

8. 授業の振り返り

今年度から生徒たちはiPadを一人一台所有しており、Microsoft office365のアカウントを有している。それゆえ昨年度とは異なり手軽にFormsを用いてアンケート調査ができるようになった。一方で、学校設定科目ソーシャル・インテリジェンスでクロス集計されたデータのカイ二乗検定の指導はしているものの、アンケート調査の質問項目の立て方を本科目で十分指導していなかった。それゆえ、何の目的でとっているか不明な項目がある状態でそれぞれのチームでアンケートを取り始めることになった。質問紙の項目を作成する際は、調査内容をいくつかの観点、項目で分類する必要がある。その過程で探究の対象を構造的に理解したり、協働的な作業の中で、新しい見方・考え方に会えたりできるかもしれない。先行研究から指標や、質問項目を参考にすることもできるように指導する必要があると感じた。